

③品質の似た果実を大量に産する静岡県に隣接していること。

①の色づきは早いが高酸度の高い、つまり外観と内容のアンバランスな品質のみかんを産することはみかんの貯蔵を必然化し、又、この自然条件を逆に利用し、早生温州の生産を有利に行なっている。そしてこの早生と年内ものと貯蔵の組合わせは農家の経営構造に関係し、専業別、階層別の出荷形態を特徴づけている。つまり、貯蔵は生産農家の個別的对応であり、小量分散方式であるため、資本蓄積のある上層農家に結びつき、又、早生は水田との多角経営では労働時期が重なるため、導入が困難である等である。このように自然条件は生産と流通の基盤を形づくり、更に農家の経済的諸条件にも影響を与えているが、この様な自然条件が産地の経済的性格を直接、複雑化しているのではなく、産地の技術的・経済的対応の仕方が二次的に産地の相違を作り上げているのである。

②の市場立地の特色はみかん農家の間で、労働力の差と技術の差をもたらして、産地の地域差の一要因となった。そして①と②によるみかん栽培農家の分化は分化に見合った複雑な市場対応を作り上げた。

市場への交通位置の有利性を持ちながらも、急速な交通の発達により、その格差はちぢまりつつある一方、労働力不足による生産費の上昇と兼業化は産地としての統一を弱め、全体として神奈川みかんの市場での声価を低めている。そして③の静岡県に隣接することは鉄道開通による静岡みかんの交通位置の有利化と共に、相対的に神奈川みかんの市場での地位を低下せしめた。

その結果、神奈川みかんは、生産市場では静岡産みかんの出荷先の間隙をぬって、又、輸送手段の機動性を利用して、東北・関東市場と結びつき、早生と貯蔵では部分的に京浜市場と結びついてはいるが、全体としては、その特性を生かして加工原料市場への結びつきを強めているのである。

## 米 沢 盆 地 の 地 誌

——農業を中心として——

石 井 悠 美 子

東北地方の南部、奥羽山脈を出羽丘陵にはさまれて米沢盆地がある。気温の較差の大きい、そのために米作と、果樹作には適した気候をもつ盆地である。中心都市は米沢、人口が10万の広い山林をもつ広域都市である。上杉藩の時代から開発がなされ、織物で有名な町である。しかし他の都市化の進んでいる町に比べると、ひどく成長の遅い保守的な街である。変化がなすすぎるのである。市街地の南方は南原とよばれる畑作地帯で、野菜、タバコ、ホップなどの工芸作物が作られている。西部の館山は伊達時代の城跡があり、リンゴが多い地域である。

盆地の北一帯は南陽市が占めている。最近生まれたばかりの新しい市である。宮内・赤湯・和郷村の三つが合併してできた市である。宮内は昔、製糸業がさかんであった。赤湯には温泉があり山の斜面を利用したブドウ栽培がさかんである。

川西町は盆地の西部にあり、農業の比重の最も重い地域である。鬼面川の扇状地面には散居集落が発達しており、経費規模の大きな農家が多い。肉牛の肥育がさかんであるが、工業はめざましいものがない。

高島町は盆地の東部を占め、多種類の産業がさかんに行われている。農業では、米作、果樹、酪農。果樹栽培もブドウ、洋梨、リンゴと多岐にわたっている。工業も古くからの製米と共に電気関係のもの、果物の加工など豊富な伏流水を利用しておこなわれている。

これら2市2ヶ町にまたがる米沢盆地は、山形県の米の一大産地であり、文明の入口ともなっている。広い平野と豊かな人口をもちながら、地域全体としての発展は必ずしも明るいものではない。農業についても、工業についても近代化を更に迫られ、今その曲り角に立っている時である。米沢盆地は米作とは切っても切れぬ関係にあるのであるから、その基本的立場のもとに今後の道を切り開いてゆくべきである。ただしそれは今までとは違い、量の問題から質の問題へとその中心課題を変えて考えてゆくべきことと思う。米作のみに限ったことではなく――

## 岩手県金ヶ崎町の酪農

北 沢 桂 子

本論文では、金ヶ崎町の酪農について考察し、内包する問題点及び動向を明らかにすることを目的とした。卒論構成は次の通りである。第一章、日本の酪農及び岩手の占める位置、第二章、金ヶ崎町の概観、第三章、金ヶ崎町の酪農、第四章、飼料構造、第五章、金ヶ崎町における酪農振興計画、第六章、要約。

本町は、岩手県南内陸部に位置し、町の東端を東北本線が走っている。ここは、第1次産業就業人口が約70%を占める農業の町であり、経営の大規模化、専門化の他に、馬から牛と豚の農業への変化が顕著である。

酪農について見ていくと、1戸当平均乳牛飼養頭数、改良草地面積、牧草畑面積が、県内陸地区の中で最も多く、かつ広い。第1図の乳牛頭数規模別農家戸数をみると、ピークが2つあり、本町の酪農が大きく2つの営農形態、即ち畑酪農と水田酪農に分かれていることがわかる。従って本町の県南内陸地区における酪農の卓越性は、この畑酪農の存在によるものと思われる。